

生物多様性地域戦略に関連する第5次日野市基本構想・基本計画の施策

まちづくりの柱	施策(大区分)	施策(小区分)	施策の展開
1 参画と協働のまち	1. 公民協働の仕組みと揚づくり	④寄付財など有形の公民協働による行政運営の推進	・地域からの寄付財と市の予算を合わせ、公民協働事業や地域活性化(地域のレベルアップ)に資する事業を実施します。公の施設においては、より使いやすい市民に親しまれる施設であるために、地域の実情・利用者の実情にあった設備の向上や維持について市民からの寄付を募ります。
		⑤大学連携の推進	・コミュニティ、福祉、観光、産業、教育などの事業について、それぞれの特性に合致した形での寄付財の活用についての仕組みを検討し、構築します。
	2. 心ふれあうコミュニティづくり	②市民活動団体の自立の支援	・市内及び近隣市の大学との連携を進めることで、大学の持っている専門性などを市民活動や行政内部に活かしていきます。「大学連携連絡会」を開催し、産官学連携をめざし情報交換を行います。
		③NPO法人格認証取得の支援	・市民活動団体の自立を支援するため、活動場所等の条件整備に努めます。また、協働に関する情報提供や実践機会の創出など市民活動団体の自立を支援します。
2 子どもが輝くまち	2. 人のつながりを活かした育てあうまちづくり	⑦新しい公共の担い手の育成・支援	・NPOの法人数が増えるよう、法人格認証取得の支援を行います。
		③安全で安心して子育てができるまちづくり	・市民や市民活動団体、企業等が新しい公共の担い手となるよう、事業活動支援を行います。
	7. 地域に根ざした特色ある学校づくり・時代とともに歩む教育	④学校評価の充実	・「仲田の森」その他の市内に残る貴重な自然を活用し、子どもたちが、豊かな緑の中で心身ともに健やかに育っていくことができるようにしていきます。
		⑤特色ある公立幼稚園の推進	・学校の自主性、自立性が高まるうえで、その教育活動等の成果を検証し、学校運営の改善と発展をめざします。また、その評価を公開することで、学校が説明責任を果たし、家庭や地域との連携・協力を進め、見える学校づくりを推進していきます。
	8. 生きる力を育み、楽しく意欲的に学べる学習環境の創出	②豊かな心の醸成	・地域との連携による特色ある幼稚園づくりを展開します。また、国の「こども園」構想を見据えながら、日野市で独自に進めている幼児園をさらに充実させていきます。
		⑦食育の充実【連携】	・規範意識を醸成し、しなやかで強い心、人とかかわる力を育むため、保護者や地域人材を活用した道徳教育の充実、自然体験学習、郷土学習、芸術・文化に触れる体験などの充実にも努めます。
			・社会性やコミュニケーション能力を養うため、職場体験、農業体験、縦割り班活動を始めたさまざまな体験活動を進めます。
			・安全でおいしく楽しい給食の充実のため、地域産野菜等の利用率の向上と充実を推進します。
4 日野人・日野文化を育てるまち	3. 歴史・文化の継承と活用	①文化財の調査と保護の推進【連携】	・児童、生徒と地元生産者の交流の場を通じた食農教育の指導体制の確立を図ります。
		②文化財の保存・管理の拡充	・幼稚園、小学校、中学校における食教育の充実のため、「日野市食育推進計画」に基づき、日野産野菜の学校給食への供給を進めていきます。
		③文化財の周知と活用の推進【連携】	・文化財を日野市の財産として継承し、まちづくりに活かすことを目的に、地域に根差した文化財調査と文化財指定を推進します。特に無形文化財の文化財指定を進めるとともに、市内の工業や農業など、現代の事物にも文化的価値を見出して記録・保存・活用を図ります。
			・地域参画により文化財を管理する「文化財の守り人」制度を構築します。
4. 郷土資料の継承と活用	①郷土資料の調査研究		・文化財を地域おこしの核として活用できるよう、文化財の周知・啓発を推進して地域への愛着を醸成します。
			・ホームページなど電子媒体を活用した文化財の周知・啓発を図るとともに、指定・未指定を問わず文化財説明書看板を設置・保全し、地域文化への理解を高めます。
			・地区センター、郷土資料館、新選組のふるさと歴史館などの既存施設を利用した地域ごとのミニ展示を設置し、地域おこしの拠り所として活用します。
			・郷土のさまざまな文化財や資料への認識が深まるよう、郷土資料館との連携を進めます。
			・日野市の歴史、文化、自然に関する調査研究を進展させ、市民の教養、学術及び文化の向上を図ります。

まちづくりの柱	施策(大区分)	施策(小区分)	施策の展開
			<ul style="list-style-type: none"> ・日野市域には、中世・近世以降多くの資料が残されています。これらの資料は、市域の歴史を明らかにするために重要な資料であると同時に、市民の共有財産としても価値があります。市民のボランティアの方々との協働により、これらの資料を調査・整理します。
		③郷土資料の調査研究成果展示	<ul style="list-style-type: none"> ・調査研究の成果を市域の歴史・文化・自然などを物語る資料として展示したり、講座を開催するなどして、市民が、先人たちの築いた文化に親しみや興味を持つ機会を提供していきます。調査成果は、デジタル保存し整理保管をすることにより資料価値を高め、そこから判明する研究成果を分かりやすく、市民が楽しめる展示を目指します。
		④市民主体の事業展開	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財としての郷土資料を常設展示できるよう設備を充実し、幅広いテーマの展示をめざします。
			<ul style="list-style-type: none"> ・市内の4つの地域(日野地区、豊田・旭が丘地区、高幡・程久保地区、平山地区)において、それぞれの地域における有志指導者・専門家の発掘に努め、その社会的活用を図ります。 ・また同時に、市民の生活課題や自分たちのなりたい姿を基本にして、実現したい企画などについて市民が中心となり議論、立案を行い運営していく事業展開を支援していきます。
5 自然と調和した環境に優しいまち	1. 地球環境政策の推進	①日野市環境基本計画の進行管理	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に定めた目標の達成を図り、環境に配慮したまちづくりを実現するため、市民の環境配慮への関心を高め、市民一人ひとりが実際の行動ができるよう進行管理を行います。 ・環境基本計画の推進を、市、市民、市民団体、事業者と連携して行います。 ・市の事務事業を実施するに当たっては、環境マネジメントシステムを活用して進行管理を行います。 ・環境活動の拠点である環境情報センターを活用し、環境白書の作成及び公表ほか、環境情報の収集・発信等を行い、推進していきます。
	2. 自然環境の保全	①みどり豊かなまちづくりの推進【連携】	<ul style="list-style-type: none"> ・現存する緑を開発等により減少させないため、保全施策や事業者との協議体制づくりを進めます。併せて、市民による緑地保全活動「ひの緑のトラスト」を支援するとともに、緑地保全及び公有化のための施策検討を推進します。 ・新たな緑創出のため、事業者や市民への協力依頼、支援施策、新規制度の検討を進めます。
		②計画的な公園緑地整備の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・公園未整備地区の解消や緑のネットワーク化など、全市を見据えた計画的な配置と、地域特性を活かした公園整備を進めます。 ・また、新規の公園整備計画のほか、未供用の公園緑地の整備と、児童遊園・地区広場等の都市公園への格上げ等を検討していきます。
	6. 生活環境の保全	③水辺を活かしたまちづくりの推進【連携】	<ul style="list-style-type: none"> ・現存する用水路を可能な限り後世に残していくため、区画整理事業においても水辺を活かしたまちづくりを進めています。 ・湧水については、広く水循環保全の一環として調査研究を進め、保全計画の立案と効果ある雨水浸透施策を進めます。 ・市民の水への関心を高めるため、生態系に配慮した水辺整備を更に推進します。また、学校・保育園等へのビオトープ設置や、水田での体験学習など、環境教育面での充実を図ります。 ・多摩川、浅川の河川敷利用を推進し、グラウンド、多目的広場等の整備により、賑わいのある水辺を活かしたまちづくりを進めます。
		④協働による施設管理の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・公園、緑地、水路等の維持管理について、公民協働の視点による体制を構築するため、現在の公園愛護会、緑地管理ボランティア、用水守等、各種制度の見直しと更なる充実を図っていきます。
7 地域の魅力を活かした活力あるまち	1. 将来を見据えた都市環境づくり	①持続可能な都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりマスタープランなどの基本構想・基本計画において、日野の魅力を活かしながら、新たな都市構造や産業構造に適応したビジョンを設定するなど、戦略的なまちづくりに取り組みます。 ・まちづくり条例などに示される公民協働による総合的なまちづくりを積極的に推進します。 ・地理空間情報の整備を促進し、統合型地理情報システム(GIS)による地域情報の集約、地域分析に基づく戦略的な施策の検討、事業評価等を行います。また、GISを活用し、視覚的に市民にわかりやすい説明、情報提供に取り組みます。
		②魅力ある住環境の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・公園と緑地の都市計画決定、民有緑地の特別緑地保全地区指定、生産緑地の追加指定などにより、自然資源や農地の維持・保全に努めます。 ・大規模な開発等の際の周辺への配慮、地区計画による敷地の緑他率の設定や接道部の緑化など、良好な景観と緑の感じられる街並みに配慮したまちづくりを誘導します。 ・敷地の緑化率の設定を設けるなど、緑の感じられる街並みに配慮した地区計画を誘導します。

まちづくりの柱	施策(大区分)	施策(小区分)	施策の展開
		③市民主体のまちづくり	・地区の特性や資源(自然資源や観光資源など)を活用し、周辺と一体となったまちづくりを実施します。
			・地域活動の拠点を設置し、自治会や市民まちづくり組織による交流やボランティア活動、地域活性化への取組みを支援します。
			・住民発意による地区計画などの地域ルールを導入を支援し、建築や景観、緑化についての地域特性に応じたまちづくりを推進します。
			・自らの手で地域のまちづくりを行うことにより、地域への愛着がわき、より良いまちづくりができます。市は地域マネジメントの取組みを支援し市民が「日野市まちづくり条例」を利活用し、「市民主体のまちづくり」ができることを広く周知します。
			・「日野市まちづくり条例」により、まちづくりマスタープランの土地利用構想と整合した適正な開発を誘導します。
		④土地区画整理事業の推進	・それぞれの地区特性(農地・水辺・モノレール・駅前周辺)に配慮しながら事業を進めるとともに、財政状況に応じた事業計画の見直しを行っていきます。
			・事業の進捗によって整備される大規模公園については、市民とともに利用しやすい公園づくりについて考えていきます。
	3. 安全で快適な道づくり	⑧道路維持管理体制の適正化	・草むしり、側溝清掃を含む道路守制度など市民との協働体制も視野に入れ、道路維持管理体制を確保します。
	5. 農業の振興	①認定農業者制度の充実	・都市農地を保全していくためには、農業を「生業」として魅力ある産業として成り立たせる必要があります。このため、農業を職業として選択し意欲と能力のある農業者を認定するとともに、認定された農業者の農業経営を支援していきます。
		②援農制度の充実	・担い手不足の農業者を支援するために、市が行う「農の学校」を修了した市民を集めて「日野人(ひのびと)・援農の会」を構成し、農作業の手伝いを行うなどの支援を行います。
		③市民農園、農業体験農園の拡充	・市民農園数は、平成22年4月現在、16園(916区画)、農業体験農園は1園(22区画)となっていますが、市民農園応募倍率が約2.2倍で、農業を体験したいという市民が多数います。今後、一人でも多くの市民が体験できるよう、公設の市民農園だけでなく、民設の農業者の経営改善につながる農業体験農園の園数を増やしていきます。
		④「農と住が共生する」まちづくりの実施	・農住共存地区に指定されている東光寺上地区でファーマーズセンターを設置したり、東光寺上地区の農地を活用したさまざまな事業を実施し、都市農業のあり方を発信する拠点となるよう整備します。
		⑤都市農業に対する市民の理解の促進	・都市部で農業を行うには、農地周辺に住む市民の理解を得ることが大切です。そのために、市民農園の開設、シンポジウム、農業講座などを開催します。
		⑧日野の農業の6次産業化の推進	・農産物を原料の姿で出荷するのではなく、さまざまな加工を行い、付加価値を付け、販売まで行えるよう、農商工の連携を推進します。